

このたび総代になられた
永井文二さんより
投稿をいただきました。

ふるさと紹介、蜃気楼の見える街「魚津」

永井 文二 (ながい ふみじ)

私は、富山県の「魚津」という人口40,000人程度の小さな市の出身です。

機械メーカーで勤務、定年退職し、今年70才になりました。福岡へは、1996年、転勤に伴い、家族4人（妻・娘2人）で引っ越してまいりました。福岡で暮らし、5年が経過した頃だと思えます。定年で退職した後も、福岡で暮らすことを決めました。暮らしの中で、多かれ少なかれ利用すると思われる施設が、殆ど、1時間圏内にあり、住環境の良さを感じたためです。また、私は次男で、兄が実家を継いでおり、暮らす場所に制約が無かったという側面もあります。

ふるさとの魚津市につきまして、簡単にご紹介いたします。

富山県の東部に位置し、北は、富山湾に面し、晴れて澄み渡った日は、その先に能登半島を望むことができます。南は、北アルプスの山々です。立山連峰を仰ぎ見ることができます。東は、黒部市、西は、滑川（なめりかわ）市と接しております。

自然現象として、一番ご紹介したいのは蜃気楼です。蜃気楼は、気温や風など気象条件が整った日、富山湾の沖合に発生いたします。春（4～5月）に発生する蜃気楼が、くっきりしており、見やすいと言われております。歴史的な行事としては、たてもん祭りがあります。2016年、博多祇園山笠が、ユネスコ無形文化遺産に登録された時、たてもん祭りも登録されました。



たてもん祭り

たてもんとは、ソリのような形をした大きな台の中心に、高さ15mほどの柱を立て、

何十個もの提灯を全体が三角形になるように吊るし、飾り付けたものです。帆掛け舟を模した万燈です。そのたてもんを大勢で曳き回すといっ

た行事です。提灯が吊るされた光景は、北九州・戸畑祇園の提灯大山笠、秋田の竿燈（かんとう）に、少し似ているかと思えます。

名所や名産を、多々、ご紹介したいのですが、魚津市だけでは限りがあります。対象を富山県に広げ、ご紹介させていただきたく存じます。

自然・歴史・文化では・・・立山黒部アルペンルート、越中八尾（えっちゅうやつお）おわら風の盆、五箇山の合掌造り集落、大牧温泉、黒部峡谷とトロッコ電車、高岡の銅器、井波の木彫刻、真宗大谷派井波別院瑞泉寺、雨晴（あまはらし）海岸、等々。食のほうでは・・・氷見（ひみ）の寒ブリ、ベニズワイガニ、ホタルイカ、シロエビ、鱒の寿し、等々。

先々、コロナ禍の制限がなくなり、自由に行動できるようになりましたら、ゆったりした旅で、私のふるさとへもお出かけください。

終わりに、新型コロナウイルスの感染が、一日でも早く終息するようお祈り申し上げます。



おわら風の盆



真宗大谷派 井波別院 瑞泉寺



井波の木彫刻